

研究課題名	薬物乱用者集団にまん延するC型肝炎ウイルスの疫学的分子生物学的研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授 田中純子
研究期間	許可日～2028年 3月31日
対象者	<p>2009年1月1日から2022年12月31日までに、国立病院機構大阪医療センター消化器内科にてHCV感染症と診断された患者さんのうち、</p> <p>①同科への受診が中断されている、あるいはフォローが終了している</p> <p>②診療目的で過去に採取された血清の残余検体が、同センターに保存されている</p> <p>上記、①②をすべて満たす方を対象とします。</p>
意義・目的	<p>「肝炎ウイルス」とはウイルス肝炎を引き起こす病原体ウイルスの総称です。肝炎ウイルスのうち、B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）は、感染者の血液や体液が他のヒトの血液に入ることによって感染が伝播します。HCV感染はかつて医療行為等を通じて拡大しましたが、輸血用血液製剤の安全確保や注射器などのディスポーザブル化、清潔操作概念の普及により新規感染は激減し、近年では一般集団のHCV新規感染はほとんどありません（0.4人/10万人年）。残る感染源として世界的にも重要視されているのは、不潔な注射器を用いた覚せい剤の回し打ちなどの薬物乱用によるHCV感染です。</p> <p>本研究では、日本のウイルス肝炎排除（Elimination）を目指し、今後の肝炎・肝がん対策を推進する上での基礎資料とすることを目的に、薬物剤乱用歴のある集団にまん延しているHCVのウイルス学的特徴に関する分子疫学調査を実施します。</p> <p>本調査研究は、厚生労働省科学研究費補助金 肝炎等克服政策研究事業 『全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた方策の確立に資する疫学研究』（代表研究者 田中純子）の一環として、広島大学と国立病院機構大阪医療センター（副院長 三田 英治）が共同で実施するものです。</p>
方法	<p>本研究では、診療の際に採取した血液の残余検体（保存血清）1mlを用いて、C型肝炎ウイルスの遺伝子を解析します。また、診療録（カルテ）情報を解析に用います。カルテから使用する内容は、性別、年齢、薬物乱用歴、HCV治療の内容と経過、HIV共感染・MSMの有無などです。</p> <p>試料や情報は、国立病院機構大阪医療センターにおいて、氏名・住所・生年月日等の個人情報情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないように加工し、広島大学に提供されます。広島大学において解析を行います。</p>
研究の実施体制	<p>研究代表者 広島大学 大学病院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授 田中純子</p> <p>共同研究機関 国立病院機構大阪医療センター 研究責任者 副院長 三田 英治</p> <p>研究機関の長 松村 泰志</p>

試料・情報の管理責任者

広島大学 大学病院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授 田中純子

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

お問合せ先

(研究に試料・情報が用いられることを希望しない場合の問い合わせ先)

施設研究責任者：三田 英治

職名：副院長

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 消化器内科

〒540-0006 大阪府大阪府中央区法円坂 2-1-14

電話：06-6942-1331

(研究に関する問い合わせ先)

研究代表者：田中 純子

職名：広島大学医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授

広島大学医系科学研究科 疫学・疾病制御学

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

Tel：082-257-5161